

複式学級 総合的な学習の時間学習指導案

授業者 岡本 光司

授業② 複式1教室

1 単元名 金沢の伝統工芸 金沢漆器の魅力にせまる

2 単元のねらい

・金沢漆器の特徴や良さ、現状について調べる活動を通して、金沢漆器の抱える課題に対して、自分たちができる行動を計画し、実現に向けて必要な計画をたて、見通しをもって学習を進めることができる。

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
②自分の考えとの共通点と相違点を意識しながら相手の話を聞き、合意形成しようとすることができる。(調整力)	①社会課題を自分の生活と関連付けて、切実感のある課題を設定することができる。(課題を発見する力)	②社会課題に対して自分たちで決めた解決策の実行にむけて、粘り強く試行錯誤することができる。(挑戦心)
③発信する相手の立場や状態に応じて、発信内容の表現を工夫することができる。(伝える力)	③自分で決めた学習計画にそって、自分の学習手法の有効性を評価することができる。(評価する力)	

4 指導にあたって

(1) 教材観

今年度の複式学級では、金沢の伝統工芸である金沢漆器について学習していく。株式会社能作（金沢市広坂）の岡能之社長に継続的にご協力をいただきながら、実社会での金沢漆器を取り巻く環境について学び、課題解決学習を進めていく。金沢漆器は、江戸時代初期より、加賀藩の文化政策によって、京都の貴族文化に武家文化が加わった表現を手に入れ、金沢の茶の湯文化の発展とともに受け継がれてきた。現代においては、能作ではインバウンド需要が拡大しており、外国人が小物入れやインテリアとして購入することも多い。また、国内観光客の需要も、コロナ禍からの回復傾向がみられている。総じて、日用品としてではなく、鑑賞用・美術工芸品としての需要が多い。

しかし一方で、金沢市民・石川県民への生活実用品としての需要が減少している。要因として、食器洗浄機の普及、年中行事の簡略化など、生活様式の変化が考えられる。どれも時代の変化に起因するもので、すぐに解決できる課題ではない。岡社長は、「金沢漆器をたくさんの人に楽しんでもらいたい」という願いを持ち、子どもはこれまで様々な機会を提供していただき、楽しさを体験してきた。

本単元は、美術工芸品としての金沢漆器の良さを発信していきたい子どもや、日用実用品としての普及を目指していきたい子どもなど、それぞれに多様な願いをもつことができる教材である。単元前半で体験して知った「金沢漆器の楽しさ」をキーワードに、楽しさが伝わるための課題解決のアイデアを模索し、一人ひとりが解決に向けての計画をたて、実現を目指していく。

(2) 児童観

本学級の子どもにとっても、金沢漆器は身近なものではないようである。今年度の総合の学習で初めて金沢漆器を見た、触れたという子どもが18人中10人であり、見たことのある子どもも、「おばあちゃんの家で見たかも」「旅館でこんな器が出てきた気がする」といった様子で、金沢漆器の特徴や良さを事前に知っている子どもはいなかった。

一方で、一学期の学習で、金沢漆器の実物を見学したり、絵付け体験をしたりするなかで、「金が華やかで格好いい」「細かな作業で、作る人の技術がすごい」「こんなに複雑で美しい蒔絵が描けるなんて信じられない」など、金沢漆器に対して愛着と興味が高まっている状態である。

課題を発見する力について、本学級の子どものうち、4年生11名は、昨年度の総合的な学習の時間で、本単元と同じ金沢の伝統工芸のうち、加賀友禅について課題解決型学習を経験している。一学期には、昨年度の学習の継続内容を3年生も一緒に経験し、加賀友禅のオリジナル商品開発を行った。その経験から、社会課題解決学習の見通しをもち、意欲も高い。

挑戦心については、今年度扱う金沢漆器は、金沢の工芸品の中でも知名度が低く、金の価格高騰や生活習慣の変化などから、子どもたち自身も「楽しさは知れたが、自分も金沢漆器をもっていないし、使う機会もない」と、生活体験をもとに課題の根深さを実感している状態である。何とかしたいという願いは強くもっているが、具体的な計画段階で壁に直面している状態である。

評価する力については、今年度の複式学級では、算数科の学習を自由進度学習で行ってきた。単元全体の構成を把握して、学習すべき内容を項目化して学習計画を立て、個人の進度にあわせて学習を行っている。個人で学ぶか、ペアやグループで学ぶか、教科書かプリントかAIドリルか等、自身の学びのためにその場面で最適な学習方法や内容を選択する経験を積み重ねてきている。

(3) 指導観

今年度の複式学級では、上記のように、算数科の学習を自由進度学習で行っている。学習を計画したり、自分の状態に合わせて計画を再調整したりする中で、自らの学習の様子を客観視する力が少しずつ身についてきている。その力を、総合的な学習に転用し、一時間ごとの自分の学びの進捗や、今後の見通しなどについてふりかえり、自己調整をさせていく。(評価する力)。

本単元では、自由進度学習で育成してきた学習の自己調整力を基盤として、金沢漆器の課題解決を個人探究型の学習形態で進めていく。それぞれの願いや課題意識に合わせて、個別に課題解決にむけて計画を立て、実行にむけて準備を進めていく(課題を発見する力)。

一方で、計画を進めていく中で、個人の方では実現困難な状態に陥ったり、人手が必要な企画を立案した際など、必要感のある場面では、仲間を募ったり、一時的にチームでの活動をしたりと、流動的に学習隊形を変えられるよう、環境を整備していく(挑戦心)。岡社長や関係機関と子どもを個別の願いに応じて繋いでいく、コーディネーターとしての役割を教師が担っていく。

また、個々の探究の進捗や困り感を教師が把握できるよう、ふり返りデータを蓄積し、子ども自身の学びの調整と、教師の評価・支援の補助資料として活用していく。

5 単元計画（総時数 28 時間）

時	学習活動	★9つの資質能力の育成に關する手だて	評価
1～4	○金沢漆器の職人の技術の秘密は <ul style="list-style-type: none"> ・漆の塗る厚さで仕上がりがかわるんだ。 ・筆使いが、僕たちとはまるで違う。 ・金は高価だから、繊細な作業が必要なんだね。 ・とっても細かい作業で、人間業じゃない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 金沢漆器は、職人さんの高い技術や道具の工夫で、魅力的な作品になっている。 </div>	★自分の経験と比較しながら、金沢漆器の職人の技術力の高さを実感するために、自分の体験活動で感じた難しさを明確にし、比較しながら話を聞き、さらに深く聞きたい点について質問をさせる。 （聞く力）	知②
5～8	○金沢漆器の魅力を直小学校に伝えよう <ul style="list-style-type: none"> ・輪島塗と比べたら、考えやすいかな。 ・珠洲なら、珠洲焼と比べたらいいかも。 ・難しい言葉がないように、表現を変えよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 相手の知っていること、生活の様子にあわせて、言葉を考えて伝えると良い </div>	★受け手に合わせた表現ができるように、直小学校の子どもたちの生活の様子や珠洲市の文化の特徴をまとめてから、自分たちのとの予備知識や生活体験の違いに着目し文章の表現を推敲させる。（伝える力）	知③
9	○金沢漆器のかかえる課題は <ul style="list-style-type: none"> ・僕たちは体験したから楽しさを知っているよ。 ・使いたいけど、家では使っていないな。 ・高級すぎて買えないって言われたよ。 ・魅力が伝わっていないのが問題なんだよ。 	★金沢漆器の知名度や実用頻度などの実情について、自分の生活様式や経験をもとにして、切実感をともなった課題意識をもたせる。 （課題を発見する力）	思① 態②
10～16	○課題解決のために、先行事例を探す <ul style="list-style-type: none"> ・能作で岡さんも工夫をしているはずだ。 ・売り場にも工夫があるはず。 ・ほかの伝統工芸も同じ課題を抱えているよ。 ・全国で復活した伝統工芸はないのかな。 	★自分で設定した学習課題に対して、具体的な解決策を生み出すため、粘り強く検討し続ける。 （挑戦心）	思③ 態②
17～27 （本時 20時）	○プロジェクトの計画を立てて、準備をしよう <ul style="list-style-type: none"> ・誰に向けてのアイデアかを確かめよう。 ・どの課題を解決するか確かめよう。 ・どんな楽しさを伝えていきたいかな。 ※上記3つの組み合わせで、 「金沢市民に」×「使う機会が少ない」×「使う楽しさを知ってもらおう」等のプロジェクトを各自がもって計画を立てていく	★自分で設定した学習課題に対して粘り強く主体的に取り組めるよう、困った場面やアドバイスが欲しい場面で、定期的に教師や外部講師との相談機会を設け、課題の再設定や調整を行う。 （挑戦心）	知② 知③ 態②
28	○二学期の学習をふり返り、三学期の計画を立てよう <ul style="list-style-type: none"> ・商品を開発するために、設計図を書こう。 ・イベントの開催のために、計画を立てよう。 	★ルーブリックの継続評価をもとに、自身の学習の様子、成長を実感できる価値付けを行う。（評価する力）	思③

6 本時の学習（28時中20時）

(1) 本時のねらい

学習計画をふり返り、現段階で自分に必要な情報やサポートを整理し、学習計画の再設定をしたり、協力依頼の準備をしたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 学習の展開

時	主な学習活動と子どもの思考の流れ ○教師の発問 ・予想される子どもの思考	・指導 ◎評価 ★9つの資質能力の育成に関わる手だて
5	1. 課題をつかむ ○これまでの学習は、上手くいっているかな？ ・他県の伝統工芸の、良いアイデアが見つかったよ。 ・僕は金沢漆器の使う楽しさを県内の人に届けたいな。 ・けど実現できるかな。	・話合いの視点を明確にするために「だれに」「どんな楽しさを」「どんなふうに」伝えていきたいかという自分の願いを確認させる。
10	<金沢漆器の楽しさを広める計画を実現させるには> 2. 個人探究をする ○実現するための計画を進めていこう。 ・ぼくは体験のワークショップを開きたいな。 ・去年の加賀友禅とのコラボ商品を作りたいな。	・一人ひとりの願いを実現するための手段を明確にするために、教師は机間指導で個別にサポートする。
15	・何か何千円くらいで買いやすいお土産にしたいな。	
10	3. 岡社長への相談・ご協力を依頼する ○実現のために、大人の協力が必要なところはあるかな？ ・ワークショップのお願いを岡さんにしたい。 ・駅でするなら、だれにお願いしたらいいだろう。 ・クイズラリーは自分たちでするから、岡さんには中身の相談をしたいな。	・子どもの自己選択を促すため、ゲストティーチャーの岡さんには、「出来る・出来ない」ではなく、「仮に実現するには、〇〇が必要だが、出来そうか」と問い返してもらう。
10	4. 学習をまとめる ・自分では、出来ると思っていたけど、岡さんに聞いてみると、実現するためには必要なことがたくさんあった。	★自分のたてた計画を実現するにあたり、ToDo リストを作成、随時更新させることで、実現するために必要な協力の依頼や準備について、詳細に計画を練り直しさせる。
5	例) 金沢漆器を外国の人にもっと知ってもらうために、観光客の多い金沢駅でワークショップをしたいな。そのために英語版のチラシも作って、駅でも配りたい。駅の方の許可も必要だ。	◎学習計画をふり返り、現段階で自分に必要な情報やサポートを整理し、学習計画の再設定をしたり、協力依頼の準備をしたりしている。
5	5. 学習をふり返り、次時の見通しをもつ ○次回はそれぞれ何をしたら良いかな？ ・ワークショップのためのチラシを作って告知しよう。 ・私は。	【思考・判断・表現③】 (エディキューブ)